

平成 2 5 年 1 2 月 2 4 日

報 告 書

那須塩原市議会議長 中村 芳隆 様

那須塩原市議会 第 3 班班長 齋藤 寿一
記録者 植木 弘行
相馬 剛

下記のとおり報告会を開催いたしましたので、報告します。

記

1. 日 時 平成 2 5 年 1 1 月 1 4 日 (月) 午後 6 時 3 0 分～ 8 時 3 0 分

2. 会 場 南公民館

3. 担当議員と役割

【担当議員】

齋藤 寿一 (班長)
中村 芳隆 (副班長)
松田 寛人 (司会者)
平山 啓子 (定例議会審議報告)
大野 恭男 (議会活性化検討特別委員会活動報告)
山本 はるひ (放射能対策検討特別委員会活動報告)
植木 弘行 (記録)
相馬 剛 (記録)

【応援議員】

藤村 由美子、齋藤 誠之、眞壁 俊郎、玉野 宏

4. 参 加 者 1 8 名 (男 1 7 名、女 1 名)
参加議員・職員など 2 3 名

5. 主な意見・要望

質疑応答

<議会報告について>

Q：寒くなって報告会を開催していただきありがとうございます。また、9月定例会に市道改良工事の請願を出しましたが、全会一致で採択していただきありがとうございます。この後は行政が実行していくものですが、ぜひ議会でも後押ししていただき早い実現をお願いしたい。

A：9月定例会の請願は、所管する建設水道常任委員会で現地視察や審査を行い、本会議において委員長報告の後、全会一致で採択いたしましたものです。事業実施は執行部の考えによって決定され実施となる。議会でもさらに後押ししていきたい。

Q：9月定例会の議案提出は、市長の41件に対して議会からは3件だけ。議会からの議案提出がこれほど少なくていいのか。また、9月6日から25日までにどのように審議したのか。

議員26人は市民約12万人の代表である。もっと議論を活発にしてほしいと思っている。議会は議決権があるので、単なるチェック機関で終わらないようにしてほしい。

A：定例議会には、4つの常任委員会が設置され議員が6、7人に分かれ審査審議している。議会は11万7千人の市民に代わって執行部に対するチェック機能の役割を担っている。

同じような政治理念をもった議員の集団が会派であって、政策集団として活動している。執行部に対してはしっかりと議論させていただいている。

Q：請願・陳情について、3月定例会で1件、6月で4件、9月が5件（内1件は継続審議として扱われたもの）と出されているが、この数字はかなり少ないような感想を持っている。議会の方々はこの数字をどのように評価されているのか。人口10万人以上の自治体としては妥当な数字なのか？

もし、少ないと解釈されていた場合は、この制度を市民に活用させるためのピーアールなどは考えているのか。

A：請願・陳情の数の多い、少ないは、私どもが評価すべきものでないと思っている。議会としては、定例会の内容を決める議会運営委員会の3日前まで受け付けている。請願・陳情の受け付けについては議会だよりやホームページに掲載している。

Q：議長、副議長選挙が行われたようだが、どうやって決めたのか聞きたい。

A：議長・副議長の選出にあたっては、所信表明という形でこれまでに3回行いった。26人の議員誰もが立候補できる。立候補した人が、所信を表明し、議場で投票し、得票数の多い方が当選し議長・副議長となる。その結果、今回は中村議長、吉成副議長に決まった。

<放射能対策について>

Q：原発事故の子ども・被災者支援法は生活上の支援をする中身になっている。当市は準指定地域。震災から1年5カ月が経過してもなお、雨どいなどは非常に高い線量となっている。国や県に頼るだけでなく市として真剣に取り組んでほしい。

A：市は放射能対策の取り組みとして粛々と除染作業などを進めている。議会としては執行部に対していろいろな放射能対策、除染に関し提言している。子ども・被災者支援法の運用に関しても執行部に対してはいろいろと物申していきたいと思っている。

Q：放射能について何%除染したかということが、目的として話題になっている。本来の目的は放射線量を下げることであり、これが一番重要なことと思う。外部・内部被ばくをいかに少なく抑えるかということを考えてほしい。

A：意見のため回答はなし。

意見交換

<議会運営について>

Q：市議会において議論を深めるために、執行部から議員に逆質問できるやり方を取り入れる考えはあるのか。

A：執行部から質問できる反問権という制度は、既に取り入れている。

Q：議事録の公開が遅いので、速やかに最新のものを提供してほしい。

A：内容精査に時間を要するため公開が遅れていることをご理解いただきたい。

<放射能対策について>

Q：ホットスポットを含めた那須北部地域の放射能汚染から一歩でも前進してほしいと思っている。放射能対策検討特別委員会では、これからどのような姿勢で計画を立てていくのか？

A：市民や団体の意見を聞き、市民にとって何が一番良いかを真剣に考え、放射能対策に取り組む市に物申していく。国に対してもきちんと要望していきたい。

Q：除染率を上げることよりも、放射線量を下げることがを目的とし、下がるまでとことんやってほしい。市民がオーケーするまでやってほしい。

A：意見として伺い、できることは要望していきたい。

Q：独協大の木村教授は、事故から時間が経過すると安心感が広がり、内部被ばくが増えていくと指摘している。市教育委員会で小学生、中学生、保護者向けに6項目の注意資料を配布して説明した。当たり前の内容だが非常に意味があると思うので、学校だけでなく、広く市民に知らせてはどうかと思う。

A：要望として伺い、執行部に伝えておきたい。

<議会報告会について>

Q：本日を含め報告会の内容について案内し、来ない人にも分かるようにしてほしい。

A：議会報告会については、終了後に議員全員で検討し来年に発行する議会だよりの中で紹介します。

<その他>

Q：板室グリーンGREENの風呂が汚くて、臭い。さらに、たばこが禁止になっているはずが岩風呂の石の周辺やトイレの中に吸殻がそのまま放置されている。気持ちよく入れるようにしてほしい。

A：グリーンGREENの清掃や禁煙を含めたマナーについては、調査させていただく。議会から執行部に伝えます。

6. 報告会の運営について

○最初の定例会の部分の説明が長すぎる。また、説明と質疑は交互に行うほうがスムーズ。

○説明内容と資料が一体となっていないため、参加者は良く理解できないのではないか。パワーポイントなどを使って、目に見える形で説明を聞くことができるような工夫が必要。また、説明内容も数字などが中心であったが、議論の内容を中心に説明すべき。

○報告会会場も今後検討すべき。(1、2か所に集中して実施することも検討すべき。また、意見交換にテーマを設定してはどうか。)

○全体的に参加者が少なかった。PRに工夫が必要。